

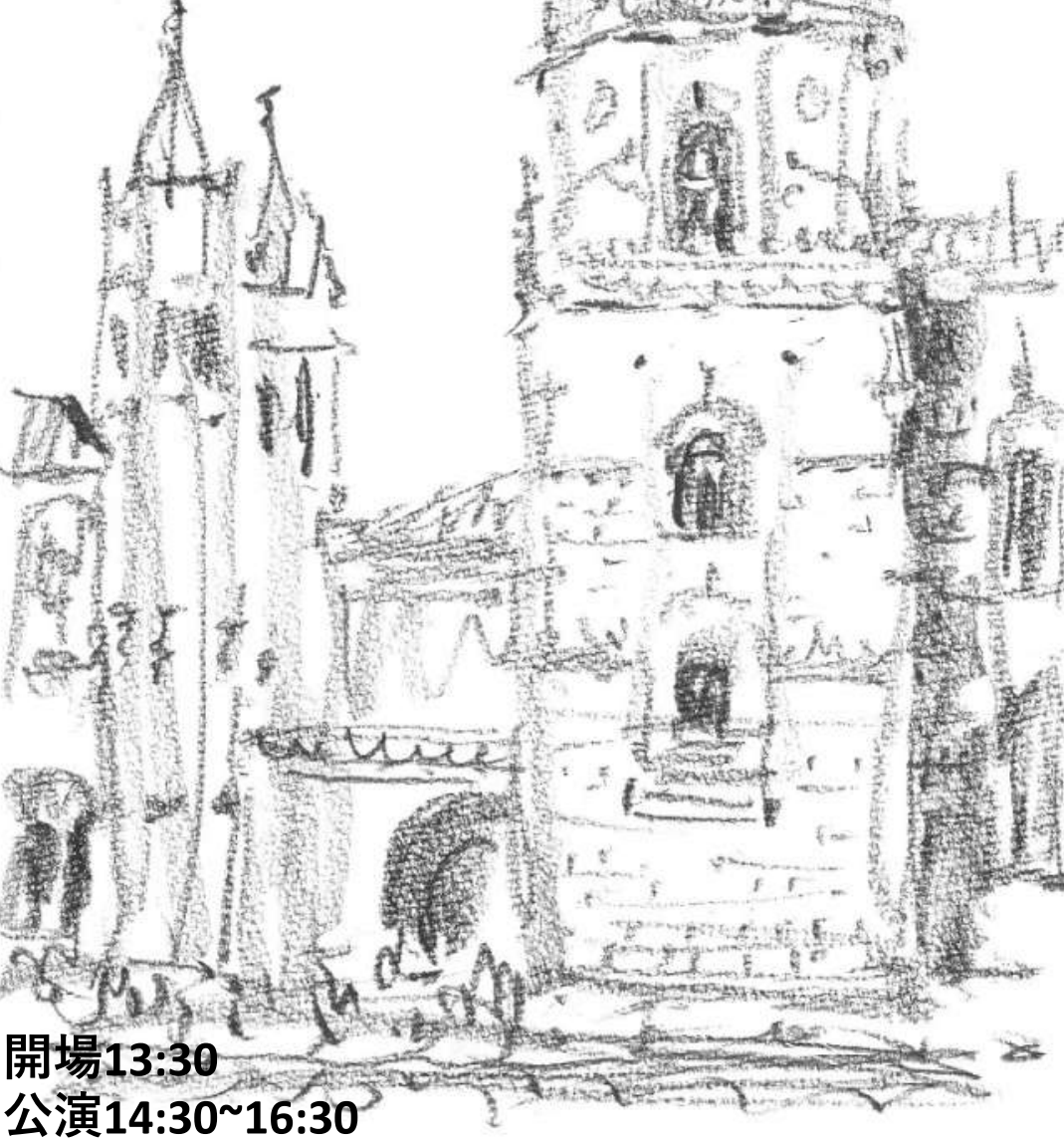
Fado Portugal

2023/9/23 SAT

津森久美子 (歌)

渡辺隆哉 (ポルトガルギター)

オオタマル (歌・ギター)



開場 13:30

公演 14:30~16:30

ポルトガルにおけるファドの歴史は意外に浅く、19世紀にリスボンの下町で現れたのが始まりとされています。

その起源は、かつてポルトガル植民地であったブラジルで働かされていた、アフリカ人奴隷が歌っていた音楽でした。身分の低い労働者が歌った哀愁に満ちた音楽が、海を越えてポルトガルに伝わったのです。

リスボンの路地裏の酒場を中心に歌われるようになった初期のファドは、植民地からやってきた貧しい人々や、船員などの労働者や芸術家などの身分が低い人々に愛されます。

ファドは、彼らの不条理な人生の憂鬱を分かち合うための手段でもあったのです。しかしそのファドの歌い手（ファディスタ）のなかから、ポルトガル国内、ひいては世界的にも有名な歌手が生まれ、ファドという音楽も広く知られるようになりました。

さらに2011年、ファドはユネスコにより無形文化世界遺産に認定をされ、文化の継承に向けた動きも高まっています。

会費 2000円 (浮輪寮同友会助成イベント)

会場・里山museum & artcenter 浮輪寮
東京都町田市野津田町1725

申込・h.maruya@a-and-a.net

電話080 6536 9240 maruya



Fado Portugal



津森久美子：歌（ファディスタ）

「そのファドの魂はポルトガル人と何らかわりない」と現地でも賞されたファド歌手。ポルトガル語で歌う前に日本語で歌詞を語るスタイルに定評がある。2003年、ファドに出会い人生が変わる。2005年初渡葡、重鎮アントーニオ・パレイラ氏に師事。2008年よりリスボン長期修業へ。ファド店「Velho Páteo de Sant'Ana」にレギュラー出演を果たし、帰国後も頻繁に現地で研鑽を積む。2014年、葡国立音楽ホール「カーザ・ダ・ムジカ」に招聘され、単独コンサートを成功。2015年よりポルトガル大使館協力のもと、ポルトガル人演奏家を招聘してのコンサートを実施している。2018年、ポルトガルのお祭りで飾り付けられた広島マツダスタジアム10周年記念試合にて国歌斉唱を務めた。聴き手の悲しみや喜びに寄り添うことを大切にファドを歌い続けている。一児の母。



渡辺隆哉：ポルトガルギター

クラシックギターを新聞英雄、塩沢一彦、大沢一仁、本間良博、江間常夫各氏に師事。また稲垣稔、鎌田慶昭、デビッドラッセル各氏のマスタークラスを受講。その後研鑽を積みコンクール優勝、入賞をはたす。月田秀子との出会いによりポルトガルギターに取り組み始める。ポルトガルギターを月本一史、芦田紫門、リスボンにてエウリコ・マシャード各氏の指導を受ける。月田秀子、高柳卓也、津森久美子各氏とのファドコンサート、映画「美女と野獣」のミュージカル歌手伊藤恵里、オペラ歌手土井尻明子、海野真理子、フルートの伊藤恵美各氏他多くの音楽家と共に活動を行っている。



オオタマル：歌・ギター

歌手、ギター奏者。本名、太田直孝。1970年静岡県磐田市生まれ。幼少期より海への憧れから東京商船大学（現、海洋大学）にて学ぶ。ジャズギターを学ぶ傍らブラジル音楽と出会い、7弦ギターを演奏するようになる。2003年ブラジルのリオデジャネイロ市にてオロンデーニョ・ジョゼ・ダ・シルヴァ、ジョルジーニョ・ド・パンデイロ、ホジェリオ・ソウザに師事。ショーロ、サンバ、ボサノバなどブラジル音楽を現地でじかに学ぶ。帰国後ポルトガル語の詩に関心を持ちギター弾き語りによる活動を始める。アルバム「7つの弦、7つのヴィーダ」を発表後、自らの内にある情感をさらに探求すべくさまざまなジャンルの楽曲にも言語を超えて挑戦。特にポルトガルの音楽に強いシンパシーを感じ、ファドの楽曲のレパートリーにも取り組んでいる。



2023年度の
抱負を語る動画



音楽と舞踏公演動画



浮輪寮紹介動画



浮輪寮道案内図

会費 2000円（浮輪寮同友会助成イベント）
会場・里山museum & artcenter 浮輪寮
東京都町田市野津田町1725
申込・h.maruya@a-and-a.net
電話080 6536 9240 maruya